



第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／緒方 尚成 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事
藤山 粹 鹿児島県霧島市商工会青年部 統括副部長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 津和野町「学びの協働」推進事業 13:35~14:05
—ふるさととは大きな家族をめざして—

山下 泰三(島根県津和野町 前津和野町教育委員会社会教育係・係長)
田中 茂秋(島根県津和野町 津和野町教育委員会派遣社会教育主事)

津和野町では学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てて行くための事業を「学びの協働」と名付けた。島根県が推進してきた「ふるさと教育推進事業」の一環として位置付けている。子どもを取り巻く関係者の協働を具体化するため学校に対する支援協力者を「学習パートナー」として位置付け、彼らの連携や協力を調整する「専任コーディネーター」を学校に配置する仕組みを作った。次の課題は地域と学校を教育的協働に組み込むための人材バンクや学社の協働を推進する公民館のコーディネート機能の充実が不可欠であると考えている。

2 地域づくりは拠点づくりから 14:10~14:40
—森の体験教室「森の駅」の思想と方法—

園田 秀則(山口県美祢市 「森の駅」 駅長)

都会との交流拠点として作った森の体験教室。地域の振興会など民間のグループが中心となって平成10年に開校した。予算ゼロで、大嶺町の森を整備、ログハウスを手作りし、木工クラフト、炭焼き、昆虫観察、きのこづくり、散策・探検、山菜採り、薪炊き釜ご飯・ピザ焼き・バーンクーヘンづくり等のプログラムを実施。年間約4,000名が入山している。課題は、災害対策・安全対策、指導者の高齢化である。

ティータイム 14:40~15:05

3 高齢者ボランティア集団の「3つくり」活動 15:05~15:35
—「明治楽友会」の生涯現役実践法—

加藤 俊一(大分県大分市 明治楽友会 元事務局長)

「3つくり」とは自分づくり、地域づくり、子どもづくりを言う。大分市明治地区の楽友会は平成14年の公民館男性教室から出発し、生涯学習と社会貢献を目的とした高齢者のボランティア集団に成長した。会員には草刈り機、網が張り、各種竹工作、竹馬遊びなど各種の技能を保有したものが多く、その機動力を駆使して子どもの教育支援、「里山再生」など官民の補助金を活用した地域貢献活動を展開している。結果的に、生涯現役を実践する会員の活力は維持され、医療費、介護費などは最少限に留まり、引きこもりもない。3年前から会員個々の生き方と会の活動の在り方の関係について、議論が始まり、平均年齢70歳を超えた今年、会員の減少と共に高齢者ボランティアの集団的な在り方について、一つの答えを出そうとしている。

4 子どもの成長をサポートする地域と中学校の協働 15:40~16:10
—地域資源を活用したプログラムの開発と課題—

屋部 文幹(沖縄県那覇市 石嶺中学校 校長)

学校、家庭、地域住民が協働で子どもたちへの教育活動を支援するために、平成20年度から学校支援地域本部実行委員会を中心に取り組んでいる。学校と地域の教育資源をつなぐ地域コーディネーターの働きが重要。これまでに学習支援はもちろん、熱帯果樹の寄贈・栽培、地域の祭を学校教育に取り入れる等、地域との協働の新しい取り組みが展開。学校を応援してくれる保護者や地域の各団体に勇気づけられている。